水産総合研究センター 研究開発情報
ISSN 1881-4557
東北水産研究レター No.32 (2014. 6)

東日本大震災で被災したさけますふ化場の復旧状況

北日本沿岸で重要な漁業資源のサケは、増殖努力により維持されてきましたが、東北太平洋沿岸部の多くのふ化場が、平成23年3月の東日本大震災により甚大な被害を受けました。サケ資源の維持は、三陸沿岸の復興に不可欠と考えられます。このため、被災したふ化場施設の復旧状況を把握するとともに、再建施設の基本設計や運用方法等について助言することにより、水産総合研究センターとして復興を支援しています。

東日本大震災により岩手県で21ふ化場、宮城県で6ふ化場、福島県は5ふ化場が甚大な被害を受けました（写真1上）。震災直後から関係者の尽力により、被災施設の応急復旧（写真1下及び写真2）が進められ、その結果、平成25年度の稚魚生産計画は、岩手県および宮城県では震災前の9割程度、福島県では、2割まで回復しました。

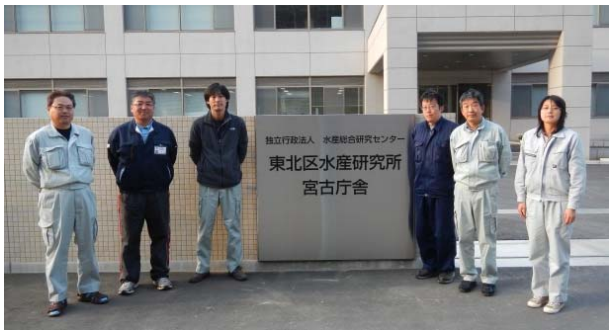
写真1　津波により瓦礫だらけになった岩手県のふ化場（上）と応急復旧した模様（下）

写真2　復旧施設より放流された稚魚

水産総合研究センターは、ふ化場の施設整備に参考になる事例を資料提供したほか、海岸近くの既存の井戸は地盤沈下の影響等により井戸水が塩水化する恐れがあること、人工受精作業で用いる水に塩分が混じるとふ化成績が低下するので注意が必要なことなど助言を行っています。

東北太平洋沿岸の平成22年生まれの稚魚の多くが津波の影響を受けていることから、平成26年以降に回帰するサケの減少が危惧されています。種卵確保についても関係機関と連携を図りながら助言を行いたいと考えています。

（沿岸漁業資源研究センター さけます資源グループ一同）



本業務に取り組んでいる、さけます資源グループ一同
（左から羽賀主任技術員、加藤主幹技術員、大本主任技術員
渡邉主任技術員、岡田グループ長、八谷研究員）

コンテンツ

①東日本大震災で被災したさけますふ化場の復旧状況
②北西太平洋におけるアカイカ資源水準のモニタリング

独立行政法人 水産総合研究センター
編集：東北区水産研究所